

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居時に説明し、玄関等での掲示を行っている。	○ 管理者がホームの理念・意義と役割を口頭で説明し、職員は理解している。また、新人には新人研修で説明している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員は、ホームの運営理念を理解し、利用者様一人ひとりに応じた支援を行っている。	○ 日々の業務の中で場面に応じて指導を行っている。また、申し送り帳に記入し、全員が把握できるようにしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	全家族、自治会長、民生員の方が運営推進委員なので、運営推進会議時に理解を得るようにしている。	○ 地域の方々への窓口となり、相談業務も行っている。地域への参加などを話す機会を設けている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に入会し、地域の参加事業に取り組んでいる。	○ 自治会に入会し、地域の情報も把握し清掃活動やお祭りなどで参加している。今後は会合等にも参加したいと考えている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催し物や一斉清掃の参加、保育園・学校との交流。	○ 中学生の職場体験などの受け入れや保育園との交流も行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会、民生員、支援事業所と協力して、見学会、説明会、介護悩み相談窓口を設けている。	○	窓口は24時間相談可能な体制となっている。現在、地域の高齢者等の暮らしに役立つことが出来ていないため今後は職員で話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所の現状を知り、改善点を見つけ、より良い事業所になるための良い機会になる。評価後、職員会議を開き改善点を改善できるように取り組む。	○	改善点を改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で解決できない意見は、早急に職員会議を行い問題解決に努め、意見を反映している。なお、解決策を報告している。	○	家族面会時やサービス担当者会議にて説明したり、急ぐ場合は電話で報告している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で行っているケアマネジメント等の研修を受け、職員会議で報告し、事業所の質の向上を図っている。市主催の認知症チームケアに取り組み、ケアのあり方、施設サービス計画書の作り方を学んでいる。	○	施設サービス計画書の資料提供をお願いするため、市介護保険課へ随時相談している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、職員会議で報告すると共に、文書にて職員回覧で理解を深めている。	○	9月の職員会議で勉強会を予定している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修に参加し、資料を回覧して理解を深めている。当ホームでは虐待ゼロを目標に職員間で話し合う機会を設けている。言葉遣いについても職員会等で話し合っている。	○	現在身体拘束を必要とする方は入居されていない。入居者が外に出る場合は職員が付き添うようにしている。身体拘束が必要な場合は家族の承諾、アセスメントによる必要性の確認、施設サービス計画書で改善できるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要説明書により、入居時に家族に説明し、同意を得ている。また、内容変更の際には文書で説明し、運営推進会議・家族会時にも説明している。	○	入居前に施設見学及び説明を行い理解・納得をいただいでから契約を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談室に気軽にきて頂ける雰囲気心がけ、利用者からの訴えについては記録に残し運営推進会議等で報告する。	○	窓口をいつでも開放し個人の話聞く時間を作るようにしている。利用者が職員に相談したことも窓口担当に報告してもらう。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面談を随時行い報告する。また、家族会・運営推進会議時などでも報告する。	○	家族には月1～4回程度会う機会があるため、報告することが出来ている。また必要に応じて電話連絡することもある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談を随時受け、話し合いの機会を設ける。職員会議、運営推進会議等で報告していく。意見の相違が有る場合は、宮崎県国保連合会等の関係機関を利用し、改善が必要な場合は改善していく。	○	相談・苦情処理改善書に記録していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び随時個別面談を行い意見を聞き、有効な提案は実行に繋げるようにしている。	○	入居者の日々の状況を把握するため、朝・夕の報告会・申し送りノートの利用等で職員の声を拾う。委員会を作り各委員会からの意見・要望を随時聞き、反映している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や行事、病院受診に合わせて前もって出勤職員数を変更している。緊急時は待機中の職員で調整している。	○	職員の急病等については職員同士で勤務交代するように協力している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者及び家族に対して異動や退職の報告をし、ダメージの配慮をする。記録や申し送りを後任者に伝え、職務に支障のないようにする。新しい職員には入居者の理解に勤めてもらう。	○	担当職員が代わる場合等も家族会や個別で報告している。現状では特に問題ないが、今後もダメージを防ぐよう対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
も			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がそれぞれの段階に応じた研修を受けている。また、免許取得についても希望が出ている。	○ 年間での研修計画、研修日程の調節を行っている。研修報告書の作成及び勉強会などを実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やブロック別研修会に参加し、他事業所との交流を図り、お互いに情報交換している。	○ 職員会議で報告し、必要であれば取り入れていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みを聞くと共に、ストレスが解消できるように個別面談を随時行う。コミュニケーションを図り、信頼関係をつくり、何でも話せるような雰囲気と時間を作るようにしている。働きやすいように備品等の購入希望があれば、購入している。	○ 面談は随時行っている。管理者側から職員に声をかけ話を聞くこともある。休みの希望を取り、職員が旅行等の計画が立てやすいようにしている。うさぎを飼いアニマルセラピーにも取り組んでいる。仕事の過剰負担がかかっているか、能力を加味して仕事量を調節している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力している点や頑張っている点を把握し、言葉かけをしている。各自が向上心が持てるように支援している。	○ 年に2回人事考課を行い、自己評価を行うと共に上司評価も行う。人事考課に努力や実績が反映され、向上心を持つようになっている。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前は出来るだけ本人を含めた施設見学・説明を行い、本人の想いや要望を伺う。また、入所後も一緒に過ごす時間を持ち、アセスメントから好みや話題を見つけ、コミュニケーションを図る。	○ 施設サービス計画書作成担当者は本人自身から話が聞けるように機会と時間をとると共に、担当職員に随時様子を聞きながら受け止めるようにしている。また、担当者は身回りのお世話をし、共に過ごせる時間をつくる為信頼関係を早く築ける。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の施設見学・説明時に家族の想いや要望を伺う。入所後も家族等の想いや要望を受け入れ、対応していき本人の様子を文書・電話・面談を随時行い報告する。	○ 家族の希望があれば、毎日電話で本人の様子を報告すると共に面会にも自由に来ていただく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容で必要と思われる要望が出た場合、アセスメントを作成し施設サービス計画書に反映している。	○	施設サービス計画書の変更が必要であればすぐにアセスメントを作成し、職員に申し送り、施設サービス計画に添った支援をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所して最初の施設サービス計画書は1ヶ月の期間で作成し、施設生活に慣れていただくような支援の内容にしている。その後は3ヶ月、6ヶ月の期間で施設サービス計画書の見直しをしている。	○	サービス担当者会議を行い本人及び家族の声を聞けるようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人が出来ること、少し支援すれば出来ること、一緒に行えば出来ることを確認し、施設サービス計画書に基づき支援している。	○	園芸・おやつ作り・食器洗い・掃除・洗濯物たたみ等一人ひとりが楽しみや役割が持てるように、日常生活の中で一緒に取り組んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が抱える想いや不安を伺い、家族と共有しながら入所者を支えている。家族参加の外出や行事を行い、共に楽しむ時間を作っている。	○	家族と共に行事や外出をすることで、職員と家族は利用者と同じ時間を過ごすことで、お互いに支援のヒントや気づきを得ることが出来ている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係がより良くなるために、支援している。家族に認知症について説明し、対応の仕方等アドバイスし理解を深めていただいている。	○	相互の想いを職員が丁寧に伝える。面会時は家族と過ごせるようにしている。家族は認知症に対して理解競れており、本人と良い関係が築けている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の面会を勧めている。また、故郷訪問や墓参り、特別な催しへの参加希望あれば支援している。	○	家族にも協力を依頼するが、施設が支援する場合もある。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂兼談話室は入居者共有の部分であり、入居者同士が話しやすい場所になっている。夕食後は2階にてお茶等を飲む場所を作り、一緒に過ごしていただいている。	○	日中は食堂兼談話室で一緒に過ごすことが多く、夜間は居室でゆっくりする方、他の方と一緒にお茶を飲む等過ごすなどされている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設から入院退所された方への面会及び主治医とワーカーとの係わりを持っている。	○	同系列の病院への入院退所のため関わりが保ちやすい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を使用し、その方の以前の生活を把握し少しでも以前の生活に近づけるように支援しているが、困難な入居者に対しては家族や担当職員にて本人本位に検討している。	○	計画作成者がセンター方式をもとに作り上げていくが、個々の状態の把握や本人の視点にたったサービス提供について、変更等の必要があった場合は、随時職員で意見を出し合い検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、職員が家族と本人に聞き取りをすると共に家族に確認と記入をお願いし把握に努めている。	○	本人の個々の生活歴や入所前の経過等を全職員で知ること自分らしく暮らして頂けるように支援している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録や経過記録、アセスメント等を担当職員が記入し、総合的に把握し計画作成者に申し送り、施設サービス計画書を作成する。	○	月に1回モニタリングにて確認・評価を行い、総合的に支援が出来るようにしている。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・担当職員・計画作成者等にてサービス担当者会議を行い、施設サービス計画書を作成している。	○	本人及び家族の意向を取り入れた支援内容になっているか、確認をとっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書が本人の現状に合っているかどうか、月に1回モニタリングを行い確認している。変化が生じた場合は担当職員を中心に担当者会議を行い、計画書の見直しをしている。	○	モニタリングを基に3、6ヶ月の見直しをしている。必要に応じて計画書の変更も行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書は介護記録のファイルと一緒に閉じてあり、職員は実践・結果・気づきを記入し、情報は共有できている。変化が生じた場合は、見直しの必要性を確認する。	○	計画書を基に日々の介護計画を記入するだけでなく気づきの部分を見出し計画書に反映させている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況、本人の負担等を考慮し、その時に応じた支援をしている。	○	病院受診、往診、訪問看護、訪問歯科等の支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員、民生委員、ボランティアは定期的訪問があり、警察・消防その他の機関は随時協力を依頼している。	○	民生委員は推進委員として協力得られている。消防より訓練・講演も実施している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入・退所後の担当のケアマネジャーや事業所との情報交換を行い、支援している。	○	口腔ケアとして訪問歯科、訪問理容、訪問パン屋など意向に副った支援をしている。また、他事業所ケアマネとも情報交換し連携とれている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に来て頂くことはあるが、まだ個別の相談はしたことがない。地域の活動等の情報をいただいている。	○	本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医にし6名の方は2週間に1度受診している。その他2名の方は28日に1度受診し、体調不良時は随時受診や往診依頼している。情報交換を行い、主治医指示のもと支援している。また、必要に応じて家族への説明を直接していただき、良い関係が出来ている。	○	定期健診、往診による予防接種なども協力得られている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症専門医に協力医としてお願いしており、主治医・家族・ワーカー・施設との連携取れている。</p>	<p>○</p> <p>現在1名が28日に1度受診しており、適切な指導及び処方がされている。夜間の眠剤など合わなければ、随時検討して頂いている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医院の看護職員、訪問看護ステーションを利用し、日常生活及び急変時の対応をしている。必要時は毎日のバイタルチェック、経過状況の報告を行い、指示を仰いでいる。</p>	<p>○</p> <p>訪問看護が週に1回訪問し、個々の状態把握、健康・衛生等の指導・助言や職員からの相談等支援してもらっている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は発生日況、日常生活情報を提供し、入院中は状況の把握に努める。医療機関との情報交換は常に行っている。</p>	<p>○</p> <p>入院になれば、医療機関と施設は情報交換し、退院後の本人への支援について家族を交えて話し合っている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>見取りの保身を打ち出しているため、本人や家族から希望があれば主治医、訪問看護と連携をとりながら、本人、家族を交えての話し合いを状況に応じて行い確認を取っている。</p>	<p>○</p> <p>看取りに関する考え方、本人及び家族との話し合いや意思表示の方法等の看取りに関する指針/同意書がある。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>看取りについては医療機関と家族、訪問看護と連携を取りながら、職員を含むチームを作り、本人・家族が満足・納得して頂けるように努めると共に看取り計画書を作成する。</p>	<p>○</p> <p>現在看取り希望の方はいないが、希望する方がいれば、看取りマニュアルを再度回覧し、職員会議等で緊急時及び看取り時の対応に備えていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族及び本人への配慮をしながら、ケア関係者に情報提供する。</p>	<p>○</p> <p>情報提供できるように、医療情報・基本情報を作成している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から言葉遣い、声かけの仕方、表情、態度を注意し合える関係を作っている。記録の保管等も気をつけている。	○ 言葉遣いで気になることがあれば、随時申し送り帳に記入し、している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりに対して、その方が分かる方法を探り、その方の言葉だけでなく表情等も読み取りながら働きかけている。	○ 言葉で表現できない方に対して、表情や動きなどだけで判断するのではなく、センター方式や家族の意見も生かして判断していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその日の気分によって、学習療法、外出等の時間や日程を変更し、希望に添えるよう柔軟な姿勢で対応している。	○ 少人数だからこそ柔軟な姿勢で対応出来るため、今後も続けていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一緒に買い物に行き、自分で選んで頂く。また、外出や行事時は職員とその日に着る洋服を考えたりしている。美容院については定期的にカットマンに依頼し、来て頂いている。	○ 行きつけの美容院への案内が出来ておらず、定期的なカットマン訪問にて全員カットして頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、それぞれの能力に応じて、えんどう豆やとうもろこし等の皮を剥いたり、おやつのお団子等を一緒に作っている。食後の洗い物もして頂いている。	○ 誕生日会や行事の際にはケーキ等も一緒に手作りし、普段と違う食事を提供している。その方の状態に合わせて、刻みやミキサー食、おかゆ等の対応をしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人希望や、家族にお好きだったものを伺い提供している。	○ コーヒー、紅茶はミルク入り、砂糖入りやブラック等好みを伺って提供している。 現在お酒、タバコを希望される方はいない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、各々の排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。	○	定期的なトイレ誘導を行うが、それ以外でもトイレの訴えあれば誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態の確認をしてから、個人の希望を伺って入浴して頂いている。自己にて決められない場合は、週2から3回を目安にしている。	○	今年開設した自法人所有の温泉に1度行ったが、好評であったため、年に数回利用したいと考えている。また、施設には大浴室があるので、菖蒲湯や柚子湯等の季節に応じて提供し、他の利用者と共に入浴している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜勤者は毎朝夜間の睡眠状況を日勤者に報告し、夜間寝ていない方が日中うとうとされていけば、布団を用意し横になっていただいている。音楽をかけ、お茶等を提供しゆっくりして頂く時間がある。	○	夜間不眠のため日中の活動に影響があったり、しっかり寝ないことで体力を消耗する方などで民剤を服用している方がおり、服薬の管理をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式により生活暦を把握し、編み物やパズル、塗り絵等を提供している。また、食後の食器洗いや洗濯物たたみなどの役割、ウサギのエサやり等能力に合わせて支援している。	○	施設内で飼っているウサギを抱っこする等で笑顔が見られている。バスを使っての外出や買い物等で気晴らしの支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については、お小遣いとして施設で預かり管理している。また、預かっていることを入居者に伝えている。使用后、金額を小遣い帳に記入し、領収証はスクラップし家族に報告している。また、外出行事の際は事前に案内で必要経費はお知らせしている。外出での買い物は自分で選んで頂けるように支援している。	○	隔週で訪問パン屋を利用し、食べたいパンを選び買い物できるように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院受診や買い物、散歩等希望にそって対応している。	○	希望を言われない方についても近くを車椅子で散歩しており、今後も継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	帰宅願望がある方が、行きたいと言われるところにお連れして支援している。また、入居者や家族の希望を取り入れ、家族と一緒に外出している。	○	家族とはバスでの外出で花を観賞に行っただけだったので、今後はもっと機会を作りたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で電話を家族に取り次ぎ、支援している。家族などへの年賀状のやり取りを行っている。	○	年末には年賀状を出す支援を行う予定。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設定せず、いつでも面会出来るようにし、別室で周囲に気兼ねなく話して頂いている。また、お茶と茶菓子でおもてなしをしている。	○	面会は食堂やディルーム、居室を使っていただく。また、家族での希望であれば面談も行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きを回覧し、職員間で意見を出し合い、取り組んでいる。	○	現在身体拘束を必要な方はいないが、身体拘束が必要な状態になった場合は家族の承諾、施設サービス計画書などで改善できるように支援する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある入居者には常に見守り、遠監視等を行い、入居者に不快感を与えないように取り組んでいる。鍵は日中はしていない。夜間も居室に鍵はかけていない。	○	外に出た場合は一緒に歩くようにしている。また、外出を誰も気づかず探す場合の協力体制は出来ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	不快感を与えないように、入居者を見守りやすい場所で様子を把握している。	○	職員は入居者の見守りが出来る場所で記録を書いている。夜間帯は中央に職員が待機しているため、早く対応できるようになっている。急変時には主任及び訪問看護が24時間対応できる体制をとっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管、管理場所があり職員が管理している。異食をされる方がいるため、その方の見守りをする事で危険を防いでいる。	○	薬については、服用できても管理・保管難しいので職員が行っている。能力に応じて行っている食器洗い時の洗剤や包丁等は職員の見守りの中で使用している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入所者一人ひとりの状態を把握し、事故防止に努めている。また、事故が起こった場合の対応についてマニュアルをよく読み対応できている。	○	事故防止マニュアル、事故対応マニュアルの回覧を行っている。ヒヤリハット及び事故報告書を作成し、申し送りや職員会議を行い再発防止について話し合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に勉強会、訓練をしている。	○	消防署からの実施訓練や救命救急講習会の受講などを行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・災害についての訓練は年2回以上、避難訓練も同時に行っている。	○	災害時に避難することで、怪我などの事故が増える可能性があるため、病院本部に応援を要請し人員を集めることになっている。なお、上の民家、横の保育園に協力を依頼している。また、台風等の事前に避難が必要な場合は、自法人の施設に利用者の受け入れを要請し、移動の協力を得られるようになっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては入居時及び家族面会時に状態に応じて話している。	○	日常生活動作を知って頂き、起こり得るリスクをわかりやすく説明している。発生した場合はすぐに家族連絡している。病院受診が必要な場合はその旨伝え、可能な限り病院に来て頂いている。事故報告書を作成し経過についても随時報告している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、入浴前にバイタルチェックを行い、状態の把握を行っている。個人記録に記入すると共に申し送り帳に異変を記入し、情報の共有に努めている。	○	体調の変化に気づいた時点で主任へ報告、状況によっては訪問看護及び主治医に連絡し連携を取っている。また、家族に報告し状況報告終了まで経過を知らせている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は鍵の付いた部屋で管理し主治医の指示のもと服薬管理している。職員は入居者の服薬について理解している。	○	服薬後の状態変化については、随時主治医に報告している。薬が変更になった場合はその都度職員に申し送っている。服薬管理は管理者が行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の仕組みを理解し、毎日昼食にヨーグルトを提供し、レクリエーションや体操、散歩等行っている。排泄チェック表により排便のパターンを見つけトイレに座っていただき、排便を促している。	○	食事に食物繊維を沢山使用すると共に、乳製品を取り入れ工夫している。それでも便秘の場合は、主治医に相談しその方に負担のかからないように便秘薬を調節していただいている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア実施している。及び義歯の管理を行っている。夜間は義歯を預かり、洗浄剤に浸している。	○	月に2回歯科衛生士による訪問指導、同じく月2回は歯科医の訪問をお願いしている。必要に応じて歯科受診に行っている。今後も続けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康診断の結果や毎月実施の体重測定により、食事の調理法や量を調整している。また、形態については一人ひとりの状態により刻みやお粥など柔軟に対応している。水分については定時や希望時に提供し、トロミ茶やゼリー茶も提供している。食事量、水分摂取量は記録し、状況により主治医に報告している。	○	糖尿の方が1名、コレステロール値が高い方が1名、骨粗鬆症、貧血傾向の方が数名いるため、その方々に配慮した内容の食事になっている。必要に応じて検査をして経過を見ている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	主治医の指示のもとインフルエンザについては予防接種を受けている。感染防止のため、感染者は居室隔離の対応をするようになっている。職員の手洗いうがいはもちろんだが、来訪者については、出入りに手の消毒液とマスクを置いており、場合によっては入室を遠慮して頂いている。	○	感染症マニュアルを回覧し、その都度喚起するようにする。また、発生時は市からの緊急広報については適切に対応していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	害虫については月に1回業者により駆除剤を設置し、管理・清潔保持のための指導を受けている。調理器具、食器類は洗浄後毎回高温乾燥機に入れ、布巾類は消毒を行っている。夕食後掃除機がけ、拭き掃除をしている。買いだめをしないようにしている。厨房担当を決め、定期的に冷蔵庫の中の管理を行っている。	○	調理当番者は新鮮で安全な食品を購入し、衛生には十分注意している。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の裏側が入り口になっているため、玄関には裏に廻って頂くように案内を表示している。来客者が中から分かるため、すぐに職員が入り口に行き、戸を開け迎え入れている。	○	スロープがあるため、階段がむずかしい方の来訪も可能である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は、日差しが強ければ、よしずをかける等直射日光が当たらないようにしている。暖房、冷房は時間による管理はせず室内の温度によって管理し、快適さを保っている。静かな音楽をかけたり、四季折々の花を飾っている。	○	夜間帯も照明や温度に気をつけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・ディルーム・畳の部分で自由にくつろげるようにしている。気の合う方同士を同じテーブルにするなど配慮している。	○	食堂に長ソファを設置し、思い思いにくつろいでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時及び随時、入居者が日頃使い慣れたものを持ち込んで頂き、設置場所は各自で行って頂いている。	○	必要時は模様替えや家具の移動をし、安全に過ごして頂くようにしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いについては、匂いが発生したその都度消臭剤をスプレーし、換気している。その際冬場であれば室温に注意し、短時間で行う。全室に冷暖房機を設置し職員は入居者の状況に合わせて換気・温度調整を行う。	○	職員はこまめな温度調節を行い、入居者に適温か声かけしている。また、冬場は加湿器を使用する。掃除時の換気にも配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各共有スペースに手すりを設置し、車椅子対応のエレベーターも設置している。廊下も広く設けられており、車椅子とのすれ違いも可能。各部屋バリアフリーになっている。	○	エレベーターは業者が定期的に点検し、管理している。手すりについては、職員による、安全点検をし、何か不具合があればすぐに対処していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	風呂場やトイレの入り口に大きく掲示したり、部屋を探される入居者の方は、家族の了解のもと名札を居室入り口に掲示させて頂いている。	○	一人ひとりに合った声かけ、やり方を説明しながら一緒に行ったりしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏の駐車スペースの脇にベンチを置いて、景色を見たり談話やお茶の時間が持てるような場所を確保している。	○	ベランダがないため、開いたスペースを有効利用して提供している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して2年目になりました。1年目は分からないことだらけでしたが、ご家族のご理解ご協力に支えられてここまで来ました。そして、職員は今日もご利用者様の笑顔が見たい一心で頑張っています。力を入れていることとして、昨年取り入れた「くもん」学習療法やリハビリ体操により、身体機能の維持増進を図っています。また、楽しみを持って頂くために、福祉バスを利用して外出行事を行ったり、自法人の温泉での入浴、天神山での花見などを行っています。なお、ご家族様に参加していただく外出も行っています。日常では、散歩や買い物など希望に応じて支援しています。地域交流として、近くの保育園との交流、一斉清掃への参加、自治会へ加入しお祭り等への参加をしています。また、実習生やボランティアの受け入れも行っています。周囲の環境は、天神山公園の下に位置し窓からは緑が見え、春には桜の花びらが舞い、季節の移り変わりが楽しめます。